# マツモグリカイガラムシ

マツの幹や枝が白くなる．また，枝が垂れ下がったり，うねるように曲がる．黄色の小判状の小さな虫がいる（雌成虫，最大長約4mm）．または，枝や幹の表面や粗皮の下などに小さな白い綿や赤～茶色の丸いものがみられる（卵のかたまりや幼虫，最大長約4mm）．
林地や庭木のマツで多発することがあり，ときに木を枯らすといわれている．

【学名】 *Matsucoccus matsumurae*
【分類】 カメムシ目（Hemiptera），
【分布】 本州，四国，九州；中国，台湾．北海道では正式な記録がないようである．

【特徴】
雌成虫は体長３～４mm，卵形で体の後方はやや広くなる．色は淡褐色（飴色）．よく発達した脚をもち活発に動きまわる．雄成虫は有翅．

【生態】
アカマツ，クロマツなど様々なマツ属の幹や枝につく吸汁性昆虫．
幼虫で越冬．１年２回の発生で，成虫は春と秋に出現．雌成虫は幹や枝の樹皮に２００～３００粒を産卵し白色の綿状物で卵のうを覆う．幼虫は茶色で丸い．粗皮の下や葉の根元などにつく．

【被害と防除】
林地や庭などで多発することがある．被害木では枝が下に垂れ（flaggingと呼ばれ，*Matsucoccus*属による加害の特徴），ときに枝枯れを起こす．木全体が枯れることもある．
北海道でも普通にみられるが，これまで被害記録はない．

【文献】
1994．竹谷昭彦．マツモグリカイガラムシ．小林富士雄，竹谷昭彦編集，森林昆虫，総論・各論: 411-413．養賢堂，東京．（形態，生態，防除）

北海道立林業試験場・緑化樹センター

マツモグリカイガラムシ kaigara/matumogu/
kaisetu.htm
「文章」 原秀穂，北海道立林業試験場，2001/8/16.